

日本におけるキリスト教の歩み

その2 禁教令から迫害初期-2

1590年秀吉天下統一

戦

安土桃山時代

国

時

1596年サンフェリペ号事件

代

1561~1595

26聖人長崎の殉教

1591年日本で最初の活版印刷が島原の加津佐で印刷。そのグーテンベルク式印刷機は、使節団が持ち帰ったもの。同年、印刷機はコレジヨのある天草の河内浦に移動。沢山の書物が印刷された。

(1614年禁教令の後、貴重な印刷機と活字はマカオに移動)

秀吉の朝鮮征伐始まる。1591年頃、イエズス会の他にドミニコ会、フランシスコ会、アウグスチノ会の宣教師達が渡来。秀吉は朝鮮征伐のため使節としてドミニコ会の神父を派遣。同神父はマニラへ帰還途中遭難。代わって別の使節を派遣。それがフランシスコ会の四人で彼らは平戸に上陸した後、名護屋で秀吉と謁見（すでに秀吉は、侵略の基地として肥前名護屋に築城）。その際、京都滞在の許可取得。その後、フランシスコ会士は京都で禁教令を無視して公然と教会建設、病院建築&布教を開始した。案じたイエズス会士は、注意したが彼らは秀吉から土地が寄進されたことは、保護することを承諾した事だと理解して聞き入れる事はなかった。彼等の宣教熱は、日本人の多くの支持者がいた。その一人に豊臣秀次がいた。1596年9月伏見大地震、伏見城、病院その他多くが倒壊。&一ヶ月後、サン・フェリペ号事件勃発。

1596年セバスチャン司教府内で病死。1596年マルチンス司教継承

1596年7月ポルトガル船サン・アントニオ号が長崎入港。船には次期司教マルチンス乗船。秀吉に謁見のため京都へ。その頃もう一隻の船サン・フェリペ号が四国に漂着。土佐大名・長曾我部は秀吉の命で積荷を没収。この事件で船員の一人が、積荷を取戻す為、不賢明に「欧州人は宣教師を利用して他国を征服する」と話した。この話は史実として未確認だが、想定可能と推察されている。この事を契機に禁教令から迫害へ突入していった。当時、京都、大坂にいたフランシスコ会、イエズス会の神父、修道士24名が捕縛。1596年12月31日秀吉は、彼らに死刑を宣告。1597年1月3日雪の都で見せしめの為町中引回し、伏見、大坂、堺へと歩かせた。同月10日26名は長崎に向け出発。途中、京都から付き添った二人の信者が捕縛され、26人となった。

1597年2月5日（慶長元年12月19日）長崎で26人の殉教者は、町に向かって並立した十字架に縛られ、役人の槍が殉教者の胸を貫いた。「全ての民よ、神を讃えよ」と最後に歌った殉教者の声は、今も西坂の丘に吹く風が運んでいる。

セバスチャン司教

マルチンス司教 1569年撤退